

復習シート 第六学年 国語



組	番号	名前

【物語を読んで答える問題】

〔1〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

わたしは、この平野をよこぎつて、むこうのウメアという村にとまるつづらにしていました。ところが、午後ウメアのひとつでまえの駅舎まできますと、二頭しかない馬が、二人づれの材木商の旅客に借りられたそうで、わたしは、夜七時まで、むなしくそこで待っていました。ところが馬はまだかえってきません。わたしは気がせくので、そこのいらの農家をさがしてまわり、ようやく一頭の馬を見つけだしました。

駅の番人は材木屋といつしょに乗つていったそうで、かみさんがてきて、わたしの馬にかいばをくれました。ここからウメアまではまだ二十マイルもあるのです。もうとちゅうには、食事をするところもないでの、ぜひここで晩飯を食べてでなくてはなりません。それで、番人のかみさんにたのみますと、かみさんは、こころよく、家へつれていき、火のそばにすわらせて、おいしいコーヒーと、ジャガイモと、となかいの肉のやいたのをだしてくれました。その家は、大きな黒い森のそばにたつてているのでした。食事をしていると、きゅうにうしろのその森の中で、「おうおうおう」と、北風が木ぎをゆすつてうなりはじめました。かみさんは、

「おやおや、ひどい風がでましたね。わるい晩ですこと。これじやうちの人は、たぶん、ウメアにとまつてあしたの朝でなければかれりますまい。むこうへおつきになつたら、きっと駅舎にいますでしよう。かわりにラルスをつけておあげします。ラルスはあすの朝、うちの人といつしょにかえればいいんです。」といいます。

「ラルスというのはだれです。」と聞きかえしますと、

「手まえどもの子どもですよ。あいにく近所にも、だれもおともをするものがいませんので……。ラルスはいま馬のくらづけをしております。」とかみさんは答えました。と、ちょうど、それとどうじに戸口があいて、十二ばかりの小さな男の子がはいって

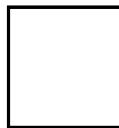
来ました。きぬのたばのようになつた金色の髪^{かみ}のまき毛を、顔のうしろにふさふさとかぶつた、ほほのまつ赤な円い青いきれいな目をしたかわいい子どもです。わたしはかみきんが、こんな嵐の晩に、こんな小さな子どもをよくへいきでだすものだとおどろきました。「ラルス、ここへおいで。」と、わたしは、その子の手をとり、

「おまえ、こんな晩にでていいくのは、こわいだろう？」と聞きました。子どもは、きよと
んど 目を見はつて、ほほえんでいます。かみさんはここにこわらつて、

「なにこの子ともたつてたしいじょうふ オどもをします 庫かへよぐきをならなければ
十一時ごろまでにはウメアにおつきになれますよ。」と、わたしが、この子でまにあうかどうか
うかとうたがいでもしたようにべんかいするのです。わたしは、どうも風がこうこうなる
のが心配でたまりませんでした。思いきって子定をかえて、今晚はこの村へとまろうかと
考えかけました。しかしラルスはへいきで、もうどんどんひつじの毛皮のがいとうを着、
毛皮のとりうちぼうしの両側のたれをおろしてあこにくくり、あつい毛おりのえりまきを、
目ばかりのこして顔中にまきつけます。母親はストーブの上にかわかしてある、うさぎの
毛皮のあつい手ぶくろをとつてわたしをしました。ラルスは、すばやくそれをはめて、短い、
なめし皮のむちをとりあげて、わたしを待つています。

――「むなしくそこで待つていました。」とあります、わたしは何を待っていたのでしょうか。次の1から3までのなかから一つ選び、その番号を書きましょう。

レ
ベル
6



3 2 1
馬 かみさん 枝木商の旅客

二
とあります。が、わたしのどんな行動から、かみさんはわたしにこのよう
うに言つたのでしょうか。文中から一文を書きぬきましょう。
レベル9

